

第5章 歴史講演会 中世の瀬戸内の海に生きる人々の暮らし — 佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」の時代背景を探る —

美隅公民館では、令和3年度に県立広島大学 秋山伸隆名誉教授による”「あまんじゃく伝説」と佐伯区の近海の歴史講演会”を2回催すこととし、令和4年3月、その第1弾として、標記の講演会を開催しました^{※1}。

その中で、秋山教授は、江戸時代の『芸備国郡志』・『厳島道芝記』・『芸藩通志』などの地誌類^{※2}、『秋夜長話』という儒学者の書物などの記述を基に、元々の伝説はどんな内容だったのか、主役の道空は実在していたのか、佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」はどのようにして成立したのか、などについて推論を重ねます。

そして、この伝説は、元々は二つの要素、つまり「道空・長者伝説」と「道裕・あまんじゃく伝説」という、別々の伝説がいつの時代かに合体して、現在の形にでき上がったのではないかと、との説を述べられます。

今回、その講演録を書き起こし、また、文献等の配付資料も掲載しました（目次から入ってください）。皆さんも是非、探偵になった気分、佐伯区に伝わる「あまんじゃく伝説」についての教授の推理をたどり、吟味するとともに、自らも調べ、推理をしてみると面白いと思います。

- ※ 1 第2弾として、廿日市市宮島町の町並みが令和3年8月に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されたことを受け、「宮島の町の成立と発展」と題した講演会を同じく令和4年3月に開催しました。
- ※ 2 地誌とは地域の自然・社会・文化などの特性を研究・記述するもので、例として郷土誌・市町村誌などがあります。